

Yamato Welfare Foundation
ヤマト福祉財団

ヤマトグループ賛助会員向け
ニュース(季刊)
発行部数13万部・非売品

2021.1.20 Winter

No.

69

News

第21回 ヤマト福祉財団小倉昌男賞 贈呈式 主催 公益財団法人ヤマト福祉財団



第21回 ヤマト福祉財団小倉昌男賞 贈呈式

**障がいのある方のために
無私・無心で走り続ける姿が
地域や企業を動かしていった**



新型コロナウイルス 感染状況下の メンタルヘルス

Profile

1971年3月日本社会事業大学卒業。2014年3月高崎健康福祉大学にて保健福祉学博士の学位取得。大学卒業後、精神科ソーシャルワーカーとして勤務。ハートランド事務局長。1995年10月に社会福祉法人の認可を受け豊志会の理事、2009年～2019年理事長を務める。東京家政大学名誉教授、2018年第19回ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞

新型コロナウイルス(以下：コロナ)は、近い将来ワクチン提供が可能とありますが、その効用と副作用が実態化されない中、「感染したらどうしよう」、「仕事はこの先どうなるのだろう」など、健康や生活の先の見通しが立たず希望が見えない中で私達は大きな不安を抱えています。どのような専門家でもコロナの流行は初めての経験なのです。

心理学的に「不安になることは異常な事態に対する正常な反応」と言われています。自治体や関連学会、医療機関等からコロナ感染リスクに伴うメンタルヘルスガイドブックが作成されていますが、コロナとの関連性の実態はまだ十分に把握されていません。

感染症対策を推進する際に、経済とのバランスだけでなく、メンタルヘルスへの関係性について、もっと積極的な対応や検討が必要だと思います。

コロナが契機となり、新たな生活様式や価値観が生まれています。心の健康の問題はそうした社会の転換と密接に関わる問題として、日本精神神経学会や関連学会から「メンタルヘルス対策指針」が出ているのでご参照ください。

国や自治体、マスコミによる自粛要請や注意喚起は感染拡大を防ぐためには有効ですが、精神的な緊張と負荷がかかることも多いと思います。

精神疾患や障害を有している方々は、強い影響を受けやすく、既存の精神疾患の再燃または悪化を引き起こす可能性があります。

日本赤十字社の「心理的応急処置、こころの救急法」は、災害時の対処法として作成されたものですが、コロナ感染下のメンタルヘルス支援の在り方にも通じるもので、困難な状況にある人々が安心して気持ちを回復させるのを支援するには、ニーズと心配事を見極め、バーチャルではなく、人と人を繋げる実体が伴ったコミュニケーションの大切さを発信しています。本当にその通りだと改めて強く感じ入るこの頃です。

※障がいのある方の表記について：本コラムは著者の表記を尊重しています

CONTENTS

表紙写真

第21回ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞者の奥西利江さん(左)、佐藤春光さん(右)のお二人。日本工業倶楽部の大会堂にて

03 第21回ヤマト福祉財団小倉昌男賞贈呈式
障がいのある方のために
無私・無心で走り続ける姿が
地域や企業を動かしていった

10 コロナに負けず「すすめ!農福師」
～自然栽培パーティ活動報告

12 ニンジンに小松菜、元気に野菜の収穫!!
ヤマトファームから中部支社の食堂へ

09 利用者さんの給料増額に向かって
夢へのかけ橋実践塾活動報告

13 2020年7月九州豪雨災害 復興支援助成金



日本障害フォーラムが
推進するイエローリボン
運動に賛同しています。

第21回

ヤマト福祉財団小倉昌男賞 贈呈式



前列左から受賞された佐藤氏令夫人と佐藤春光さん、受賞者の奥西利江さんと元同僚の福本明子さん。後列左より森下明利ヤマトグループ企業労働組合連合会会長、山内雅喜ヤマト福祉財団理事長、厚生労働省 社会・援護局 赤澤公省 障害保健福祉部長、長尾 裕ヤマトホールディングス(株)代表取締役社長



会場内ではソーシャルディスタンスを守り、パーティションで区切りました



障がいのある方のため
無私・無心で走り続ける姿が
地域や企業を動かしていった
障がいのある方の雇用の拡大、労働環境の向上、高い給料の支給などに努められた2名の方を表彰するヤマト福祉財団小倉昌男賞。第21回の受賞者は、社会福祉法人維雅幸育会の統括管理者 奥西利江さんと、社会福祉法人ホープの常務理事 佐藤春光さんです。今回の贈呈式の様子は、全国にライブ配信しました。



より多くの方に受賞の喜びを 贈呈式の様子をネットで配信

12月3日、今年も12月の障害者週間にヤマト福祉財団小倉昌男賞贈呈式を開催しました。会場は恒例の日本工業倶楽部(東京都)ですが、コロナ禍にあり、受賞者や推薦者など限られた方だけをお招きしての贈呈式です。

「本賞をコロナ禍でも無事に開催できたことをうれしく思います。今回は、ライブ配信もしておりますので、画面の向こうから地元のみならず、

さまざま一緒に二人をご祝福ください」と山内理事長が挨拶をしました。

選考委員を代表し、元環境事務次官の渡辺修委員は「地元の方や企業と力を合わせ、障がいのある方が安定して暮らせる環境を築き、地域社会の活性化にも貢献されるお二人の功績を高く評価しています」と伝えました。

地域の方たちを動かしたのは 奥西さんの純真な思い

奥西さんは大学卒業後、三重県伊賀市の障



「この賞は、職員や地元の方、ご協力いただく企業のみなさんと一緒にいただいた価値あるものです」と奥西利江さん



「いまは施設外就労で10万円を超える給料をもらう人もいます」と奥西さんの推薦者(社福)伊賀市社会福祉協議会平井俊主 常務理事



当初は地域の方の反対もあり4度も引越すことに。今は、伊賀市内の「ふっくりあ」に本部を構えています

がい児入所施設に勤めました。

当時、障がい児施設に入った子どもたちが、大人になってもそのまま、施設で一生を過ごすことに憤りを感じます。

「普通に暮らすこととはどういうことなんだろう、本当にこれで良いのか」と考えていた奥西さんに声をかけたのが、推薦者の(社福)伊賀市社会福祉協議会の平井俊主常務理事です。平井さんは「子どもたちが学校卒業後に通える作業所を一緒に創ろう、そこをあなたに任せた」と話しました。

奥西さんはまだ24歳。お金も人脈もありませんが、子どもたちのために走り出します。アルバイトをしながら保護者と寄付を集め、2年をかけて小規模作業所を開設。すると利用者さんは次々と集まり、やがて40人近くに。奥西さんは「ボランティアだけでは限界。法人化したい」と市にお願いしたのですが簡単にはいきませんでした。それが好転したきっかけは小学校での講演でした。児童たちが「障がいのある人たちを助けてあげて」と署名を集めてくれたのです」と振り返ります。

その声に共鳴したのが、元伊賀市長の今岡睦之さん(現理事長)です。「市長に当選したら最初の仕事は、法人化の実現だ」と話し、陰で日なたで応援を続けます。「社会福祉法人は、あなたたちのためだけにあるのではない。困っている地域みんなのためにあるのです」と話してくれたその言葉は忘れられません」と奥西さん。

もう一人の恩人が、法人化資金を出資された前田維さんです。「このお金は施設を建てるためではなく、地域に役立つ人材を育てるために差し上げます。どうか子どもたちの未来のために活かしてください」と8000万円も寄付いただいたんです。前田さんには、初代理事長になっていただき、維雅幸育会の名称もお名前からいただいています。

「現在は五つの事業所を開設。大手企業との施設外就労も実現しています。そのひたむきな人柄に触れると、だれもが力になりたいくなるんですよ」と平井さんは紹介しました。

無認可作業所の開設も、法人化も 現役教師でありながら実現

約30年前、佐藤さんは北海道白老町で「ことばの教室」の担任として、ろうあや知的障がいのある子どもたちの教鞭をとっていました。保



「お二人の活躍は地域に根付いた素晴らしいものです。受賞は選考委員全員一致で決まりました」と渡辺 修選考委員



「私たちが障がいのある方の就労支援と、そこに携わる方たちをずっと応援続けます」と厚生労働省 社会・援護局 赤澤公省障害保健福祉部長



「お二人の姿に、私たちもっとと地域の方のお役に立ちたいと改めて感じました」とヤマトホールディングス(株) 長尾 裕代表取締役社長



「夏のカンパや賛助会員として支援する仲間の思いを大切に受け取ってください」とヤマトグループ企業労働組合連合会 森下明利会長



「福祉に携わり30年以上経ちますが、たくさんの方に支えられて、私はやってこれました」と佐藤春光さん



2004年に開設した(社福)ホープの事業所「フロンティア」。他にも2事業所、四つのグループホームも運営



「障がいのある子たちのためになる、と思ったら採算を度外視してすぐ動き出してしまう方」と佐藤さんの推薦者の戸田安彦 白老町長

クライマックスは、山内理事長からお二人に正賞の雨宮 淳氏作のブロンズ像「愛」と賞状、副賞賞金100万円の贈呈です。奥西さんと一緒に仕事をし、施設外就労の生みの親である福本明子さん、佐藤さんを支え続ける令夫人には花束を贈りました。続いて3名の来賓より祝辞をいただいたあと、両受賞者の喜びのスピーチ(Ｐ8に抜粋)。画面を通して地元で見守る多くの関係者に感謝の言葉を伝えるお二人からは、周囲の方を強く魅き付けるその人柄がにじみ出ていました。

聴者にもネットで届けました。

そんなお二人の活動をビデオ上映。全国の視

よへと伝えました。

「次に法人化を目指して奔走されるのですが、その寄付集めに私にも声がかかりました」と推薦者の戸田安彦 白老町長。「とにかく、障がいのある方のため」と思い立てば、施設外就労先の拡大、グループホーム開設など、猪突猛進で走り出してしまう。そんな姿を見ていると、周りもつい協力したくなるんです。本人は60歳で辞めると言っていました。もう70歳を過ぎていますし、きつと一生挑戦し続けるでしょう(笑)。私たちもずっと応援し続けていきますよ」と伝えました。

「次に法人化を目指して奔走されるのですが、その寄付集めに私にも声がかかりました」と推薦者の戸田安彦 白老町長。「とにかく、障がいのある方のため」と思い立てば、施設外就労先の拡大、グループホーム開設など、猪突猛進で走り出してしまう。そんな姿を見ていると、周りもつい協力したくなるんです。本人は60歳で辞めると言っていました。もう70歳を過ぎていますし、きつと一生挑戦し続けるでしょう(笑)。私たちもずっと応援し続けていきますよ」と伝えました。

希望を失った保護者が親の会を解散すると聞けば無償で会を引き継ぎ、不景気で職を失った障がいのある方たちが町に戻って来ると無認可の共同作業所も開設します。驚きなのは、これをすべて現役教師を続けながら行われて来たことです。

「次は親の会を作り、子どもの将来を守る環境改善を学校に訴えます。でも私たちの声にだれも耳を傾けてくれない。先生もやがてはここを去るでしょう」。その言葉に「一過性の対応ではない、継続的に支援することこそ大切と気づいたのです」と佐藤さん。

施設外就労で実現した 給料増額と正社員への道

社会福祉法人維雅幸育会 統括管理者 奥西 利江さん

11月18日、山内理事長は、奥西さんの案内で三重県伊賀市内にある施設外就労先の一つ株式会社ミルボンの工場へ向かいました。

施設の外で働くことで
より多くの方の理解を深める

(株)ミルボンの工場の中に入ると、青いユニフォームを着て施設外就労で働く「びいはいぶ」の利用者さんが見えてきました。キビキビとした姿は社員とまったく見分けが付きません。

奥西さんが施設外就労に取り組むことにしたきっかけは、周囲の反対に遭い、4回の引越を経た経験からでした。「人は普段見ていない他人のことを理解できません。だから町中に施設を作り、日頃から地域の中に溶け込めるようにしたんですよ」と奥西さん。「働く場所も作業所ではなく、町の工場や商店で」と施設外就労と一般就労に力を入れてきました。しかし、企業に就職できた障がいのある人たちは、失敗を繰り返すと施設に戻されてしまいます。

「その姿を見て、きちんと準備をして社会に送り出してあげることが、私たちの大切な役目だと実感しました。」ではどうやれば良いのか。奥西さんは、(株)ミルボンの村田輝夫取締役生産本部長との出会いで、大きく変わったと振り返ります。

「当時、担当係長だった村田さんは、ここに入って働けば良いじゃないですか。うちの求める品質と生産性を守ってくれたらなにも問題はない。通常の給料をきちんと用意しますよ」と答えてくれたのです。さらに村田さんは「社内で一緒に働くということがすごく大事だと思います。アウトソーシングされた下請けではなく、会社のラインに入って働く方が利用者さんにとって学ぶことは多いはず。力がつけば会社にとって、なくてはならない存在

にもなれます」と話してくれました。

(株)ミルボンは、みえメディカルバレーと呼ばれる工業団地にあります。村田さんは、周りの企業が施設外就労に消極的だったときも、協力を惜しみませんでした。利用者さんの働く様子を見学してもらったとで高評価を得て、いまでは大手5社が施設外就労先となっています。

「施設外就労は、お菓子づくりなどとは違い、経費がかからず大半を給料にまわすことができます。いまでは平均工賃を約5万3000円まで増額できました」と奥西さん。

地域と共生する施設外就労の
新しいモデルとしても注目

ここでは、工場内の1本のラインをそのまま奥西さんたちが担当しています。利用者さんが会社で働くルールやマナーを身に付け、仕事の技

能をしっかりと修得できると正社員候補に。採用されるときは、1本のラインで働く利用者さんとサポートする職員全員というから驚きです。

「いまでは6本のラインを任せていただき、みんなで次の正社員採用を目指して頑張っています」。

さらに凄いのは、(株)ミルボンを退職された方がパートとして福祉施設で働き、利用者さんと職員のスキルアップを指導する、そんな仕組みまで考え出していることです。企業は利用者さんと職員を若き人材として登用し、福祉施設は企業で働く方がリタイアした後のセカンドステージになっています。

「地域社会と福祉が共生する新しい施設外就労のモデルとして全国に広めていきたいですね」と山内理事長も感心することしきりでした。



最初に訪ねたのは、維雅幸育会の本部があるグループホーム「ふっくりあ」



職場での役割や責任感も理解し、企業内で頑張る利用者さん



施設外就労以外にも菓子製造なども、「ふっくりあモーション」は、伊勢志摩サミットで採用されたお茶菓子も作っています。写真は伊賀市庁舎の出張販売

教師としての信念で 拓く障がい者の働く場

社会福祉法人ホープ 常務理事 佐藤 春光さん

11月11日、(社福)ホープ、民族共生象徴空間の軽食売店「カフェリムセ」、施設外就労先の農場など、佐藤さんと一緒に巡りました。

町の人が大切にする
アイヌ伝統文化の担い手に

千歳空港から1時間半ほど車を走らせ、白老町へ。この町では、アイヌ文化の多彩な魅力に触れることができるウポポイ事業が進められています。ウポポイは、アイヌ語で「歌うこと」を意味する言葉です。2020年7月には「民族共生象徴空間」がオープンしました。附帯施設の軽食売店「カフェリムセ」では、(社福)ホープの利用者さんが、給仕や売店スタッフとして元気に働いています。

「みんな楽しそうでしょう」と目を細める佐藤さん。これまで高い給料を支払うために、藍染め教室や養鶏場、喫茶店などいろいろな事業に挑戦しましたが、思うように売上は上がりませんでした。

「利用者さんの作業能力で高い利益を得ることができるとあるなら、企業が既にやっている。企業が手を出していない、自分たちだけの付加価値のある仕事でなければ、高い給料を支払うことはできないと、次第にわかってきたんです」。

「そこで着目したのが、町の人たちが守り続けるアイヌ文化です。『私たちがアイヌ文化の担い手になれないか。伝統食品や工芸品などを製造・販売することで、施設の売上を伸ばせないかと考えました』」。

「幸い私たちを応援していただけた地元の方たちは、お金に余裕はなくても土地はたくさん持っています。この土地を借りて行者ニンニクなどのアイヌの伝統食材の栽培もはじめました。ここは農業法人であり、利用者さんが施設外就労すること、より高い給料を手に行きうることになっています」。

※YouTubeのヤマト福祉財団公式チャンネルでそれぞれの施設の紹介を公開しています。

地域に必要とされる喜びと
仕事へのやりがいを与えたい

(公社)北海道アイヌ協会に職員を送り猛勉強。アイヌ文様の刺しゅう品、アイヌ特有の食材であるヘネイモやヤマユリ、ニセウなどのお菓子や食品も製造できるようになり

「エゾシカカレーに使用する鹿肉の解体作業場は、地元の理解者が提供してくれました。さらに原料調達や解体作業も地元の有志が協力してくれています」。

「コロナ禍で喫茶店などの来店者数は伸び悩んでいます。博物館の売店ならお土産を買う人も多いので、うちの商品を並べて売上増を狙う計画です。でも高い給料を支払えるようにすることだけが、私たちの仕事ではないと思っています。それ以上に大切なのは、仕事にやりがい、地域が必要とされている喜びを与えてあげることではないでしょうか」。

障がいのある方が、アイヌ文化の伝承者として働く意義は、そんな思いにもつながっていました。



民族共生象徴空間、ウポポイの歓迎広場にある「カフェリムセ」



カフェリムセで働く利用者さんは「大好きな接客業ができてうれしい」と話します



利用者がアイヌ伝統文様を刺繍したネックストラップは売れ行きも上々

受賞の言葉

こんな素敵な表彰状を いただき感激しています

社会福祉法人維雅幸育会 統括管理者 奥西 利江さん

1962年 三重県名張市生まれ。1985年 佛教大学社会学部社会福祉学科卒業、障害児入所施設に保育士として勤務。1988年 小規模作業所「上野ひまわり共同作業所」開設。1994年「社会福祉法人維雅幸育会」創設。1995年 知的障害者通所授産施設「上野ひまわり作業所」、1997年「びいはいが」、2003年「ふっくりあ」を開設。2006年 株式会社ミルボンなどで施設外就労を開始。2009年「ふっくりあモーション」を開設し、2016年に伊勢志摩サミットのお茶菓子に採用される。2017年 びいはいがの高工賃支給に対し天皇陛下より御下賜金拝受。

利用者の夢を叶える
それが私たちの仕事

本日は、素晴らしい賞をいただき、晴れがましく思っています。35年間の活動を素敵な言葉で綴った表彰状までいただき、思わず目頭が熱くなりました。

私たちがより高い給料を目標にしているのは、開所当時、初めてお給料を手にした利用者さんの言葉を聞いたからです。

「これではほしい物も買えない。奥西さんの仕事は、僕たちの夢を叶えてくれることなんですよ。」

その声に応えるため、職員みんなですつと頑張ってきました。職員の大半は一般企業で働いたことがありません。ミルボンさんに厳しく失敗を指摘され、利用者さんと一緒に泣いて帰って来たこともありました。でもそれはミルボンさんが、障がいのあるなしに関係なく私たちを育てようとしてくれたからだ、と感謝しています。

そんな職員たちもいまは立派な管理者に成長しました。昨年ミルボンさんに提供いただいた8000坪ほどの工場跡地を使い、学校を卒業した子どもたちが、社会に出て働くための勉強ができる施設も計画中です。私は後方支援にまわり、若い職員にすべて任せるつもり。できたらグループホームの掃除のおばちゃんになつて「ちゃんと片付けなさいよ」なんて小言を言いながら、日々寄り添い続けていけたらと思っています(笑)。

受賞の言葉

たくさんの人との出会いに 恵まれて今があります

社会福祉法人ホープ 常務理事 佐藤 春光さん

1951年 北海道杜町出身。1976年 北海道教育大学社会科卒業後、白老町立森野小学校に赴任。1990年 白老町ことばの教室や情緒障害児学級設置実現を通じ「白老町手をつなぐ育成会」を引継ぐ。1997年 教職に就きつつ「共同作業所フロンティア」開設。2004年 社会福祉法人ホープ設立。翌年白老小学校を早期退職し常務理事に。2005年「通所授産施設フロンティア」開設。2009年から2017年に四つのグループホーム開設。2011年「多機能型事業所フロンティア」開設。2013年より施設外就労を開始。2015年 登別市に就労継続支援B型事業所開設。2020年 民族共生象徴空間(ウボロコ)に直営レストラン「カフェリムセ」開業。

走り出したからには
中途半端では終われません

コロナ禍のため、授賞式に出席できないかとも思っていました。が、今は参加できて本当に良かったと喜びを噛みしめています。

福祉をはじめて身に沁みてわかったのは、福祉にはとてもお金がかかると言うこと。事業所開設はもうろん、利用者さんの住む場所や新しい仕事を創り出そうと考えたら、そのための投資が必要です。宝くじでも買おうかと周りに話すと、「人生最高の大当たりである奥さんを引き当てたんだからこれ以上は無理だよ」と言われてしまいました(笑)。

でもお金の苦労は、周りの方に助けていただいていたんとか乗り越えて来ました。私は人との出会いに恵まれ、みなさんのおかげで今があると思っています。そんな方たちが見守ってくれているのですから、中途半端では終われません。

利用者さんたちの姿を見ると、まだやり遂げないといけないことがたくさんあると感じます。もつと農場を拡大してアイヌの伝統食を育て、新しい料理や商品を提供していきたい。隣町の登別に介助を受けながら温泉にもゆつくりと入れる、そんな新しい施設も建設して利用者さんの高齢化にも対応していきたい。一度やると決めたのだから最後までやり通さなければ・・・この賞を手にしてそんな気持ちがあります(笑)。

利用者さんの給料増額に向かって

夢へのかけ橋 実践塾活動報告

コロナ禍で昨年2月の塾長視察を最後に、オンラインによる研修しか開催できなかった楠元塾。昨年11月ようやく塾長視察を再開しました。



第3期楠元塾 塾長視察 2020年11月9日

自分たちの作りたいものでなく、 お客さまが食べたいと思うお弁当を

楠元塾長が昨年11月9日に長野県安曇野市にある、はたらく工房むぎのねに伺いました。お蕎麦で有名な安曇野で、もと繁盛店だったお蕎麦屋さんを居抜きで手に入れた事業所です。穂高のふもとにあるむぎのねは、広い庭の前に田園風景が広がり、畑も隣接しています。

おやきの製造販売を主な作業内容としていましたが、この場所に引越して弁当もはじめました。まだまだ個数が増えない中、メニューの広がりがに悩んでいます。

楠元塾長は「見た目も味も美味しいお弁当を作ること、自分たちの作りたいもの、売りたいものでなく、お客さまが欲しいと思っていただけるものを作らなければなりません。お弁当以外に地域特産のリンゴでコンポートやジャムを作ってもよいです」。この場所が繁盛店だった蕎麦屋さんなので、蕎麦職人を入れてお蕎麦を出すお店にしたらどうかと楠元塾長が提案しました。「私たちはなんのために事業をするのか、自分たちのしたいことでなく、利用者さんの工賃をどうやって上げるか、迷ったらその原点に戻ってください」と話しました。



おやきとお弁当の製造を行うむぎのね。安曇野ならではの景観と地域の特産を活かせればと、自分たちの中では見えてこないアイデアを、楠元塾長からたくさんいただきました

第3期楠元塾オンライン研修会 2020年10月26日

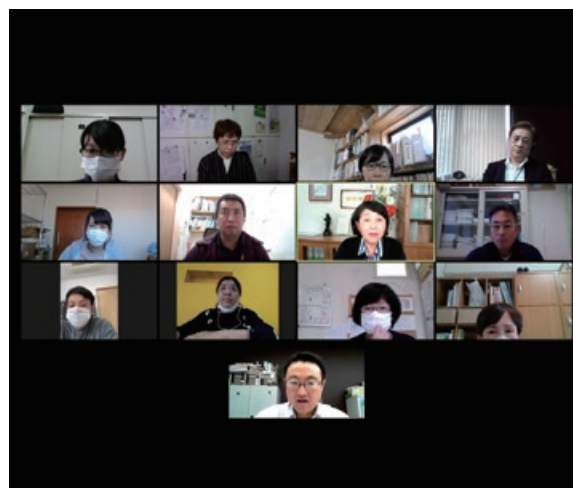
仲間のよいところを吸収して挑戦を

約半年間もお休みになってしまった楠元塾ですが、10月26日、オンラインによる研修を行いました。

それぞれの近況報告では、病院の職員へのお弁当を再開し、少しずつ売上が伸びている事業所、店内のビュッフェ形式からお弁当販売にシフトし、市役所などでの販売をはじめた事業所、新しくおむすびの販売をはじめた事業所など、コロナ禍に負けない、動きをしている事業所も多くあります。

楠元塾長は「たくさんの仲間の良いところを吸収して、それを真似て自分のものにする。今の現状を分析して、挑戦してください」と塾生に呼びかけました。

コロナ禍で、集合研修を十分に行うことができなかったのが、塾を1年延長します。



塾生の報告の一つひとつ、応える楠元塾長。衛生面、営業、メニューなど、今すぐに行えること、考え方などをお話いただきました

遠くにいても心は一つ、 全国の仲間がオンラインで参加



第5回自然栽培パーティ全国フォーラムは、オンラインで全国の仲間に配信しました



コロナに負けず「すすめ！農福師」 自然栽培パーティ活動報告



技術・取り組みが向上した人にありがとう賞を、農業の楽しさを発見した人によかったね賞を、今回は11名の新しい農福師を表彰。来場者には、木村氏から奇跡のリンゴも贈られました



「配信を見て、私も農福師になりたい、と思う方が増えるのではないですか」と山内理事長

こんなときこそ、農業をやっていて、
パーティの仲間がいて良かった！

10月9日に開催した第5回全国フォーラムは、コロナ禍のため集客は断念し、メイン会場の北海道余市郡「農村公園フルーツパーク」にきからライブ配信しました。

自然栽培パーティの機部理事長は「農業をやっていると、障がいに関係なく一人ひとりに大切な役割があることがわかります」と挨拶。山内理事長も「農福師」は、農業に励み楽しみ成長する障がいのある方の称号です。そんなみなさんを主役に、パーティの活動がより広がることを願っています」とビデオレターを送りました。また全国のパーティの仲間たちも「元気に働く姿を見てほしい」とVTRで参加しています。

会場では、奇跡のリンゴの木村秋則氏と佐伯康人顧問のトークセッションを開催。「5年の活動で全国に約100グループ・2000人の仲間が増えました。利用者さんの成長は目覚ましく、自然栽培の指導者となる人もそろそろ誕生しそうです」と盛り上がりしました。

自然栽培パーティアワードでは、新しく選ばれた11名の農福師を紹介。来場した方には推薦者の各施設長から表彰状が手渡されました。「仲間の体調を気遣い仕事の準備まで行う姿は、まるで職員のようにです」「最初の頃は不安そうでしたが、いまではイキイキとあなたらしく働けるようになりましたね」など、それぞれの頼もしく成長する姿、楽しく働く姿を讃えました。

最後は、会場と8名の福祉関係者や一緒に働く農家の方たちをオンラインで結びライブトーク。「自然栽培の可能性を伝える良いモデルになろう」と全国の仲間にエールを贈りました。

ヤマト福祉財団は、第5回自然栽培パーティ全国フォーラム、ハレバレごはんプロジェクトに助成しています。

※YouTubeの自然栽培パーティ公式チャンネルで、第5回全国フォーラムのライブ配信映像を公開しています

農福師たちが育てた作物で コロナ禍の日本を元気に!



豊田地域医療センターにお弁当をお届けしました

小雨の中で開催した「畑の青空レストラン」。それでも参加親子は、初めての野菜の収穫や美味しい料理を心から楽しみました

野菜と一緒に農福師の 応援メッセージが入った「声の箱」を、 宅急便でお届け

「コロナ禍で大変な思いをしている方たちに、自然栽培と農福師の力でエールを贈ろう」とスタートした「ハレバレごはん」。四つのプロジェクトで展開する第1弾は、9月13日に開催した「畑の青空レストラン」です。

9月13日、北海道札幌市みのり彩園に12組の地元親子を招待しました。農福師のガイドで楽しく作物の収穫体験をしたあと、畑の中に用意したテーブルへ。大空の下で自然栽培の食材を使いプロのシェフが腕を振った料理に舌鼓を打ちました。農福師たちは、給仕に加えて得意のダンスや歌で歓待。コロナ禍で疲れた心と身体を癒してもらいました。「コロナで収入も減り、子どもにもいろいろ苦労をかけています。今日は楽しく笑顔で過ごさせてもらえて、本当にありがとうございます」と参加者。農福師たちも「みんな笑ってくれて良かった。またやりたい」と手応えを感じていました。

第2弾は農福師が、地元の若者や子どもたちと一緒に農作業をし、一汗流したあとにご飯を振る舞う「まかない飯レストラン」。第3弾は、自然栽培の野菜を使ったお弁当を一人親のご家庭や子ども食堂に配達する「今日は、お母さんと食べよう」。第4弾は全国の医療関係者や子ども食堂に通えなくなった子どもたちを農福師が食と声で応援。自然栽培で育てた野菜セットに応援メッセージを添えて贈る「声の箱」です。

まず、無門福祉会が自然栽培の野菜をふんだんに使ったお弁当を豊田地域医療センターにお届けしました。声の箱は、9月から北海道から南は九州までの全国各地域で展開し

ています。箱の中には、農福師たちが自然栽培で育てた野菜や加工品などをセット。畑の空気や雰囲気も味わってほしいと、同梱したリーフレットにQRコードを記載し、農福師たちの応援動画を見ることができるようになっています。声の箱を受け取ったみなさんからも感謝の言葉が届き、元気な声のキャッチボールもできました。



声の箱を宅急便で受け取られた方からは「開けた途端に子どもから歓声が!」「美味しい野菜と一緒に暖かい愛情も入っていました」そんな喜びの返礼が届いています



ニンジンに小松菜、元気に野菜の収穫!! ヤマトファームから中部支社の食堂へ

ヤマト福祉財団が支援する無肥料・無農薬で米づくりや野菜づくりを行う自然栽培パーティ。その中の一つ、無門福祉会（愛知県豊田市）の畑に、ヤマトファームがあります。昨年3月に中部支社のみなさんと収穫のお手伝いをさせていただき、支社の食堂で調理に使う予定でした。残念ながらコロナ禍でその活動が延期に。畑ではニンジンや小松菜、スナップエンドウが収穫を待っていました。

12月12日、無門福祉会の農福師（楽しく働く利用者さん）が収穫作業を行う農場に伺いました。当日は曇りのち晴れ、寒さがゆるんだ収穫日和でした。



無門福祉会の利用者さんが、ニンジン、ジャガイモ、小松菜などを、中部支社の食堂へお届けしました。これからも定期的に野菜が届けられます！



ちょっと土が硬いなあ、ニンジンとれたよ、甘いかな



甘くて味が良いね 収穫のあとの焼きいもは格別の味

社会福祉法人無門福祉会

2015年から自然栽培を本格的にスタート。借り受けた地域の休耕地がどんどん広がり、今は畑や田んぼで60反以上（東京ドームの28.2個分）になりました。品種も多く、畑の拡大とともに生産量が多くなり、出荷が継続できることで、スーパーや居酒屋などに販路が安定してきました。なにより美味しさが伝わり、最初は年間5万円だった売上が今は100倍以上になりました。



2020年7月九州豪雨災害 復興支援助成金

昨年7月、日本付近に停滞した前線の影響で、九州地方は記録的な大雨となりました(令和2年7月豪雨)。特に熊本県を流れる球磨川が氾濫・決壊。人吉市では市街地の広範囲が浸水しました。財団では被害の甚大だった人吉市の社会福祉協議会にヒヤリングを行った結果、3件の障がい者施設に助成金を贈呈しました。

社会福祉法人白いキャンパス福祉会

助成対象 施設復旧改修工事
助成金額 4,080,000円 総工事費の1 / 4(自己負担分)



被災した建物内の様子



1階の床を張り直したところに伺いました

30~40cm程の床上浸水、送迎車両3台が浸水により廃車、エアコンも使用不可、受託作業を行っていた1階の備品や資材はすべて廃棄処分になりました。8月から公民館や病院のホールなどを借りてさおり織りなど自主事業を再開。ようやく改修工事が終わり、受託事業を再開していきます。

地域生活支援センター翠

助成対象 面談室兼作業場用倉庫設置工事
助成金額 420,000円

精神病院を母体を持つ翠では、社会復帰のリハビリを受けて退院した利用者が、就労に向けて弁当配達事業やパン製造を行っています。7月豪雨では、近くを流れる球磨川の支流が逆流し、120cmの床上浸水、休憩所としていたコンテナが流されてしまいました。助成金で新たに設置します。



球磨川の激流はここまで来ました



ヤマト運輸労働組合熊本支部の渡邊支部執行委員長から贈呈

一般社団法人Guts サンサイド事業所

助成対象 送迎用軽車両(中古車)購入
助成金額 500,000円



ふるさと納税で人気の「幸せのからあげ」



厨房機器も復旧し製造再開しました

サンサイド事業所では、移転したばかりの唐揚げ、お惣菜製造販売を行っている店舗が被災しました。7月豪雨では床上1m浸水で、厨房・事務機器がすべて水没。厨房機器は復旧して営業再開しましたが、浸水した送迎用の車両にまで及びませんでした。助成金で車両が手当てできたとホッとされています。

YWF TOPICS

猫カフェのグランドオープンに向けて 11月2日 障がい福祉サービス事業所猫カフェ fukufuku開設



猫カフェ fukufukuの玄関に大きなハイビスカス、保護猫たちが窓の向こうでお出迎えです(上)。近くにはブルーオーシャンが(下)

沖縄パワーアップフォーラム実行委員であり、第1分科会のメンバーである金城氏が、「猫カフェ」の運営を柱とする、就労継続支援B型事業所の猫カフェ fukufukuを立ち上げました。

ここでは、厨房、接客、バックヤードでの猫のお世話など、利用者さんのさまざまな仕事があります。また、猫カフェで保護猫を飼養することで殺処分される不幸な猫を一匹でも減らすことができます。猫カフェ fukufukuは障がいの特性に配慮し、必要な知識、技術の向上を目指して訓練を行うことで、それぞれの得意分野を活かした、下請に頼らない安定した働く場を構想しています。

12月現在、利用者さん4名に6匹の保護猫が、来年の猫カフェグランドオープンに向けて、猫グッズを作ったり、コーヒーを淹れる練習をしたり、少しずつできることを増やしながら準備を進めています。カフェには、沖縄パワーアップフォーラム第1分科会の展示販売コーナーも財団の助成で作る予定です。

利用希望者の問い合わせや、猫の保護への依頼も増えているなか、益々グランドオープンが楽しみになってきました。

東日本大震災から10年 南三陸町から感謝状をいただきました



佐藤仁町長から復興の様子を説明いただきました



佐藤仁町長(左)から感謝状と南三陸町の杉の木で作られた記念の桶をいただきました

東日本大震災の助成先である南三陸町から11月6日、感謝状をいただきました。当時、南三陸町は津波により町全体が壊滅的な被害を受けました。主力産業である漁業の6割を占める鮭の水揚げを控え、佐藤町長は背筋も凍る思いだったと話します。ちょうど4年前に放流した鮭が秋に戻って漁業関係者はようやく収入にメドがつかころです。

助成金選考委員会では、「見える支援・早い支援・効果の高い支援」を目指し、第1次助成先の一つに南三陸町を選考。仮設の魚市場、漁船、生産施設、加工施設の復旧費用を助成しました。

「助成を受けて、鮭の水揚げができる市場をなんとしても10月までに完成させよう」と。仮設市場の完成の時、豊饒の海は残った・・・、あのときから水揚げがはじまって、これで復興の足がかりがついたと強い思いを持ったのを覚えています」と佐藤仁町長。

2015年に本市場である地方卸売市場が完成しましたが、仮設の魚市場は今も地元の「復興市」などイベントに使用されています。

全Aネット 就労支援セミナー in 静岡 2020年10月17日



全Aネット就労支援セミナーが「禍災を乗り越えてA型事業所の未来」と題し、静岡会場とオンラインの同時開催で行われました。

最初に厚労省からA型事業所の行政説明が行われたあと、財団の山内理事長が「コロナ禍におけるクロネコヤマトの満足創造経営」と題し、ヤマトグループの歴史、経営を紹介しながらコロナ禍の中でどういったことをしているか、自分たちの職場をよりよく経営していくためのヒントを交えて講演を行いました。

午後からは、実践報告として施設外就労を中心に進める静岡の株式会社富士山ドリームビレッジ、農福連携で農業を事業の中心に据える沖縄の合同会社ソルファコミュニティがコロナ禍の対応などを交えて報告。また、昨年優良A型事業所に選ばれた事業所の認定式をオンラインで行いました。ヤマト福祉財団は全Aネットの活動を継続的に助成しています。

YWF TOPICS

JDF全国フォーラム 私たち抜きに私たちのことを決めないで ～障害者権利条約 12月7日オンラインで開催

JDF(日本障害者フォーラム)は2004年に発足。国連・障害者の権利条約の推進とそれに基づく国内法制度の向上を柱に活動を進めています。スローガンは「私たち抜きに私たちのことを決めないで」です。障害者権利委員会による日本の審査は2020年8月の予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大により延期となりました。今後は、国連障害者権利委員会に、市民社会組織として当事者の立場を踏まえた意見を集約した「総括所見用パラレルレポート」を提出予定です。「コロナ禍であらわになった問題は元々あった問題。障害分野から新しい提言を」と藤井克徳副代表が総括しました。この活動をヤマト福祉財団は助成しています。

障害者とともに働く

藤井克徳 星川安之 著
岩波ジュニア新書 刊



コロナ禍の中、多くの方が、「従来通りでない」働き方に直面しているのではないのでしょうか。働くってどういうこと？ 本書は、実際の現場で工夫されていること、障がいのある方と一緒に働く人の目線(心の向き)など事例を通して、また働く現場の背景にある政策や社会のあり方を、わかりやすくひも解きます。1章・働くことは生きること、2章・障害者の働く現場から、3章・希望するだれもが働くために、4章・「ともに働く」に向けて大切なこと、の4本の柱で構成されています。

ジュニアのみならず、この時期だからこそ「働くとは」を振り返り、考える一冊です。

2020年度 障がい者の働く場 パワーアップフォーラム 福岡会場

2月19日(金) オンラインセミナー

コロナ禍で延期されていたパワーアップフォーラム福岡を、2月19日に開催いたします。
障がい者の働く場でさまざまな実績をあげた方々を招いて、障がいのある人の仕事や暮らしについて参加者と一緒に考えを深めていく研修会です。
今回は、福岡会場編としてオンラインセミナーとなります。



全日本ろうあ連盟創立70周年記念映画 『咲む』



看護師国家試験に合格したろう者の女性の瑞月(みづき)は就職活動で苦戦をしている中、ある村の診療所で雇われる話が舞い込みますが、採用を見送られることに…。瑞月がさまざまな障壁を乗り越えていく姿から、「ろう者」とは、「聞こえない」とは何かということ、「手話言語」が素晴らしい言葉であることが伝わってきます。

主人公の瑞月役をNHK[中学生日記]に出演した藤田菜々子(ろう者)が熱演。島かおり、丘みつ子、佐藤蛾次郎をはじめ盲ろう者や、障がいのある方が出演する『咲む』は観る人すべてを笑顔にします。

各地で上映中です。上映スケジュールは全日本ろうあ連盟『咲む』サイトからご確認ください。

<https://emu-movie.jp/>

「ネパール小児白内障治療プロジェクト 3年間の記録」発刊



ヒカリカナタ基金とヤマト福祉財団が、ネパールの目の不自由な子どもたちに「光を届ける」活動を行いました。ヒカリカナタ基金は、第17回小倉昌男賞を受賞した竹内昌彦氏が受賞を機に設立された認定NPO法人です。

竹内氏が目の不自由なアジアの子どもたちに向けて行っている、手術費を提供するなどの活動をネパールに広げ、財団とともに「ネパール小児白内障治療プロジェクト」として、アイキャンブ(眼科検査)を実施。眼に異常のある子どもたちには無料で手術やメガネを提供しています。その2017年度から2019年度までの活動の記録を1冊にまとめ、昨年12月15日に発刊しました。





ライデン国立古代博物館所蔵 古代エジプト展



ホルの外棺



女性のミイラ



王の書記パウティのピラミディオン



パティコンスの『死者の書』

All images © Rijksmuseum van Oudheden (Leiden, the Netherlands)

DATA

開催期間 ▶ 2020年12月19日(土)～2021年3月31日(水)
休館日 ▶ 毎週月曜日(ただし1月11日(月・祝)、3月29日(月)は開館)、1月12日(火)、年末年始(12月28日～1月1日)
開催場所 ▶ 静岡市美術館
(静岡県静岡市葵区紺屋町17-1 葵タワー 3階)
アクセス ▶ JR静岡駅北口より地下道を利用し徒歩3分
静岡鉄道新静岡駅より徒歩5分
開館時間 ▶ 10:00～19:00(展示室への入場は閉館の30分前まで)

観覧料 ▶
(税込)

	一般	高・大学生・70歳以上	中学生以下
当日	1,500円	1,000円	無料

※障がい者手帳等をご持参の方および介助者原則1名は無料
主催 ▶ 静岡市、静岡市美術館 指定管理者(公財)静岡市文化振興財団、テレビ静岡、中日新聞東海本社、ライデン国立古代博物館
後援 ▶ 外務省、オランダ王国大使館、静岡市教育委員会、静岡県教育委員会

古代エジプト文化の新たな知見を紹介

1818年にオランダ王国の初代国王ウィレム1世により設立されたライデン国立古代博物館。約2万5000点にのぼるエジプト・コレクションは、ヨーロッパにおける5大エジプト・コレクションに数えられる量と質を誇ります。

同館は、60年以上にわたりエジプトでの発掘調査を行っていることでも広く知られ、1960年代のアスワン・ハイ・ダムが建設された際の考古学調査の支援、1970年代からのカイロ南西に位置するサッカラでの発掘調査の継続、ツタンカーメン王の側近であったマヤの墓の調査など、世界をリードする研究が進められています。

本展は、200年以上にわたり収集されてきたライデン国立古代博物館のコレクションから10数点の棺や5体の人間のミイラ、8体の動物のミイラなど、約250点が出品されます。

本展出品ミイラのCTスキャンデータを世界初公開

見どころは、ミイラ棺の研究で知られる同館所蔵のミイラ棺10数点の立体展示です。棺を横に寝かせるのではなく、特別に立てた状態で展示することにより、棺に記された「死者の書」などの呪文、神々の図像、装飾や色彩、書体の違いまでを見ることが可能になります。

もう一つはミイラのCTスキャンデータです。ライデン国立古代博物館では、発掘されたミイラに巻かれている布をはがさずにX線での研究、1990年代にはCTスキャンが実施されてきました。今回、本展のために新たに行われた3体の人間のミイラと1体の動物のミイラのCTスキャンの解析データは世界初公開となります。

本展はヤマトグローバルロジスティクスジャパン株式会社が作品の輸送・展示をしています。

協賛 ▶ 大日本印刷、静岡銀行
協力 ▶ ヤマトグローバルロジスティクスジャパン
問い合わせ先 ▶ 静岡市美術館 054-273-1515(代表)
公式サイト <https://leidenegypt.jp/>
※コロナ感染症の状況により、会期など変更の可能性がございます。
※新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、入場者数の上限を設定しております。展示室内の混雑緩和のため、静岡市美術館HP(www.shizubi.jp)より、ご来館日時のご予約をお願いいたします。
巡回情報 ▶ Bunkamura ザ・ミュージアム
2021年4月16日(金)～6月27日(日)
仙台市博物館 2021年7月9日(金)～9月5日(日)
山口県立美術館 2021年9月18日(土)～11月7日(日)
兵庫県立美術館
2021年11月20日(土)～2022年2月27日(日)
※巡回会場の会期は予定です。

ご協力ありがとうございました



スワンのクリスマスケーキ

2020年末、スワンのクリスマスケーキはいかがでしたでしょうか。
おかげさまで、12月に販売したクリスマスケーキは、昨年より約8,000個も多い99,357個となりました。
ヤマトグループのみなさま、ご協力ありがとうございました。
これからもみなさまに喜んでいただけるよう、スタッフ一同邁進していきます。
これからもよろしくお願いいたします。

